

【農業生産の振興（生産流通対策）】

～米粉製品普及推進の取組み～

1 取組みの契機

近年、米は栄養バランスに優れた食品として見直され、その特徴を活かした多様な食品が市場に出回りつつあり、米の新たな活用方法が注目されてきている。

しかしながら、県中地方では米の新たな活用方法に関し、生産者、製粉業者、食品加工業者、販売業者らの連携が少ないことや、生産者から食品加工業者等への原料供給ルートが未確立であることなどから商品開発や販売の取組みが進んでいない状況にある。

また、当地方は県内有数の米産地であり、安全安心な米を安定的に供給できる一方、過剰作付けの是正及び実効ある需給調整対策が求められている。

このため、多様な消費形態に対応した米を素材とする商品開発及びPRを食品産業者等と連携して推進することにより、需給調整の確実な実施とともに米の消費拡大や地域食産業の活性化を図る取組みを行うこととした。

2 取組内容

(1) 米粉製品の製作、流通販売対策

① 米粉製品試作・検討会

(ア) 目的 米粉加工食品の商品開発支援と流通スキームの支援

(イ) 実施日 平成20年9月19日（金）

(ウ) 場所 県郡山合同庁舎大会議室

(エ) 出席者 米粉製品試作者、製粉業者、JA、農政事務所、市町村、県ほか 約50名

(オ) 委託業者と試作品

株式会社ライフフーズ（パン）、株式会社フルラージュ（かすてら、サブレ）、有限会社日の出屋（パン）、釘屋商店（生麺）、株式会社かんの屋（ロールケーキ）、玉木屋本舗（お菓子）、株式会社 柏屋（お菓子）

(カ) 結果（成果）

株式会社ヨークベニマルや有限会社日の出屋、株式会社フルラージュなどにおいて、米粉製品が販売されるようになった。

② 米粉製品セールスプロモーション（うつくしま米粉フェア）

(ア) 目的 米粉加工食品の認知度支援と消費拡大対策

(イ) 実施日 平成20年9月27日（土）、28日（日）

(ウ) 場所 ヨークベニマル八山田店

(エ) 結果

既に米粉製品を開発、販売している8社と県中農林事務所の委託により製品化を行った2社の計10社が出店し、パン、クッキー、カステラ、ラーメンなど約30商品を販売したところ、大勢の人々で賑わった。

来場者605名から得られたアンケート結果では、「米粉製品の種類に驚いた」、「しっとり、もちもち感がとてもおいしい」、「米に対する見方が変わった」、「小麦アレルギーのため、米粉製品に期待している」など、米粉製品の販売拡大を望む多くの声が寄せられた。



米粉製品販売の様子



米粉製品(米粉ハスレット)

③ 米粉FOOD&AGRIニーズマッチ会

- (ア) 目的 生産者、製粉業者、食品製造業者、販売業者等のマッチングや交流の推進
- (イ) 実施日 平成21年2月19日(木)
- (ウ) 場所 県農業総合センター多目的ホール
- (エ) 参加者 生産者、製粉業者、食品加工業者、飲食店経営者、学校給食関係者、JA、市町村、県ほか 約200人
- (オ) 内容
 - a 基調講演
 - 演題：「米粉ビジネス最前線！！米粉の普及状況及び米粉加工食品の開発と現状等について」
 - 講師：江川技術士事務所 所長 江川和徳氏
 - b 事例発表
 - (a) 発表内容：「県中地方産米を利用した商品開発と販売戦略」
発表者：株式会社フルラージュ 代表取締役 佐藤豊喜氏
 - (b) 発表内容：「学校給食における米粉製品導入に向けた取組み」
発表者：天栄村学校給食センター栄養教諭 二瓶美智子氏
 - c ニーズマッチング
生産者、製粉業者、食品製造業者、販売業者等の情報交換
 - d 米粉商品の展示・試食

(カ) 成果

米粉の供給体制や価格、活用方法等について意見交換され、県中地方産米粉を利用した流通ネットワークの確立につながった。

参加した食品製造業者や学校給食関係者においては、米粉製品の試作、販売等を試みることとなり、また、従来、他県産米粉を使用していた食品製造業者が、県中地方産米粉に切り替える動きとなった。



基調講演及び事例発表



ニーズマッチングの様子

(2) 学校給食米粉製品導入（天栄村）

ア 目的 食育や地産地消活動と連携した学校給食への米粉パン等の導入支援

イ 関係者による試食・検討会

(ア) 実施日 平成20年10月3日

(イ) 場所 天栄村健康保健センター「へるすぴあ」

(ウ) 参加者 約30名

(エ) 内容

学校給食における米粉製品利用推進に係る米粉製品試食・検討

ウ 天栄村内小中学校、幼稚園で米粉のパンを使った給食メニューの試食会

(ア) 実施日 平成20年12月2日

(イ) 場所 天栄村内7施設

(エ) 内容

児童、生徒約600人を対象に、米粉パンの試食及びアンケートを実施

エ 成果

天栄村をモデルケースに、平成21年度、県中管内の市町村において米粉製品を導入することになった。



米粉のパンを使った給食の試食会



当日のメニュー

3 今後の取組み

(1) 米粉製品試作・検討会

さらに米粉加工食品の開発支援と消費者への商品PRを強化するとともに、米粉製品の利用拡大を図るためには、安定した販売先が必要であることから、流通スキーム確立の支援が必要である。

(2) 学校給食米粉製品導入

天栄村モデルにあつては、米粉製品（特に米粉パン）の品質が業者間で一定してないことから、製造者の技術水準の高度化支援が必要である。